第２回夷隅地区地域協議会　記録

１　日　　時　　令和５年２月１６日（木）　午前１０時３０分から午後０時１５分まで
２　場　　所　　夷隅教育会館　会議室
３　出 席 者　　１４名／１４名
４　概　　要

（１）第１回夷隅地区地域協議会の記録（案）について

委員に確認し、承認

（２）「県立学校改革推進プラン」再編対象校に係る成果と課題について

資料１「県立学校改革推進プラン再編対象校に係る成果と課題について」に基づき事務局より説明

（３）夷隅地区の県立高校の在り方について

①普通科（「教員基礎コース」）について

コースについて事務局より説明。続いて、資料２「大多喜町教育委員会資料」に基づき委員より説明

【 委　員 】

大多喜高の教員養成に関する取組は３年生13名とのことだが、実施以前には教員養成系の大学にはどの程度進学していたのか。

【 委　員 】

毎年１０名ほどが進んでいた。町としては地元に戻ってきてほしいので、これからも支援を続けていきたいと考えている。

【 委　員 】

大多喜高校に「教員基礎コース」が設置されるのを契機に、さらに希望する生徒が増えていけば良いと思う。

【 委　員 】

教員を目指す生徒は、高校までで大学の進学先が決まる傾向がある。県は既に設置している「教員基礎コース」の功罪を明らかにし、その内容の良いところは充実させ、そうでないところは改善しながら進めていただきたい。

将来、教員となる生徒には高校段階ではなく、小学校、中学校の段階から素養を身につけていく必要があるので、自治体には義務教育段階からのキャリア教育を推進してほしい。

【 委　員 】

いすみ市では、週に一回放課後に、市が雇用している講師に小学生の希望者を対象に「たけのこ塾」と称して課外授業をしてもらっている。夏季休業中の夏季講習には、小学生だけでなく、中学生も対象に実施しており、指導者の人数確保のために、高校生にもボランティアで講師を呼びかけたところ、近隣の高校生、特に大多喜高校の生徒が多く教えに来てくれた。教える喜びを味わっていただけたものと思っている。

【 委　員 】

大多喜高校の卒業生で教員や公務員になった者の数は毎年１００人位いたのではないかと思う。同窓会を以前行ったときに、私のクラスの半数が教員になっていた。これは地域の職業選択の幅が狭いことが背景にあるかもしれない。

「教員基礎コース」の設置前から、大多喜高校には夏休みの補習のお手伝いをよくやってもらっていたので、今後もさらに活性化することを期待している。

【 委　員 】

「教員基礎コース」では、何年生から、どのような学びを行っているのか。また、既設のコース設置校の進路状況はどうか。

《 事務局 》

昨年度、最初のコース設置校である千葉女子と安房の卒業生から、８名が千葉県の教員に本採用された。これに続く２期生も同様の状況である。ただ、これには他県で採用された者や保育士、児童相談所、臨時的任用講師等は含まれていないので、これらも含めるとコース設置の効果はあったと考える。

次に設置した我孫子と君津については、まだ卒業生が社会に出ていないので、結果はこれからになるが、現時点で一定数が教員養成系大学に進学していることを把握している。

「教員基礎コース」での学びは、コースの学びによって志を持って大学等に進学してほしいという目的で展開しており、その具体的な内容やカリキュラム、何年生からといったものは設置校によりさまざまである。

具体的な学びの内容については、大学の先生を呼んで講話を受けたり、実際に近隣の小中学校に行って、教育活動のお手伝いをしたりといった活動を展開しているものなどである。

【 委　員 】

教員が受け持つ科目は多様なので、近隣の国際武道大学と連携し、体育の教員を育成することもできるかもしれない。教員への意欲ある生徒を送り出してもらうよう要望する。

【 委　員 】

今の話では、カリキュラム、単位認定も学校によりさまざまということだが、本校の「公務員養成コース」では２学年３学年に４単位ずつの学校設定科目を定めて計画的に学習している。

市町や学校に任せるよりは、県として単位やカリキュラムについて共通の内容を定めて、各校のノウハウを共有するため指導主事を配置するなどして県が主体的に内容を充実していくべきである。

《 事務局 》

単位数については概ね３年間で３、４単位としている。また、コースに共通した考えとして「高校でどれほど教員について学んでも、大学には合格しなければならない」ということがある。そのため、コース設置校では、まず進学のための学びをしっかりと行いつつ、そのうえで、プラスでコースの学びを受けるという展開を実施している。

【 委　員 】

生徒が地元に戻ってくるようにしたいとしても、地元で彼らを受け入れる体制が必要である。教員以外の公務員を育成するコースも検討していただきたい。

【 委　員 】

以前から教員を育てるに大学からでは遅いと感じていた。「教員基礎コース」に進めば、進学時に優遇されるなどの特典はあるのか。

《 事務局 》

あれば良いとは認識しているが、大学入試では公平性が問われるので難しい面がある。しかし、最近増えてきている面接型入試では、コース選択者には面接で話すための材料がいくらでもあると思う。コース選択者に対して何かしら優遇することについては模索中というのが現状である。

【 委　員 】

高校の魅力づくりは大切である。町にとっても重要である。住民、高校生の数が減れば町は衰退する。大多喜高校の魅力が増し、生徒が増えて、町が賑やかになってほしい。

【 委　員 】

東上総教育事務所管内では、教員の新規採用は例年１００人位であるところ、今回は約８０人となった。教員の魅力については、昨今働き方について取り上げられていることも背景にありそうである。

【 座　長 】

大多喜高校のコンソーシアムに出席したことがあるが、大多喜高校では通常、大学に進学してから教員について考えようというところを、その前段から色々な経験を通じて意識づけをしている。また町の支えもある。色々な経験を少しでもできるように、地域に何ができるか、それが魅力につながるかがポイントになるかと思う。

【 委　員 】

学校経営の観点から申し上げる。今、教職員の世代交代の波が来ている。今、若い先生が多いが、彼らは地域外、県外の先生が多い。初任の若い先生は５年で異動となるが、彼らには出身地に戻る傾向が見られる。そのため、６年目以降の教員の配置が必要と要望もしているが、中々少ないのが現状である。

ここで大多喜高校に「教員基礎コース」が設置されて、地域出身の教員が増えてくれるとありがたい。また、魅力発信の面でいえば、教員となった生徒は「あの先生に憧れて目指すようになった」とか、「あの先生の背中を追いかけた」という子が多いように見受けられる。したがって、生徒が憧れるような教員がいてこそ教員を目指す生徒が出てくる、という面もあると考える。

②総合学科（普通、生活福祉、園芸、海洋科学系列）

総合学科について事務局より説明

《 事務局 》

よく普通科と総合学科の違いを食事の選択の自由度で例えるが、普通科は洋風、和風弁当を選択できるレベルで、総合学科はいわばビュッフェで選択できるレベルとなっており、総合学科の方が、自分の好みに応じて食事、つまり学びを選択できる。その食事が日本料理、フランス料理、中華料理などと分けられているのが、総合学科における系列となる。

総合学科はまた、１年次に「産業社会と人間」が必修科目として設定されており、そこでキャリア教育を行い、様々な専門的な学びに触れることで、職業意識を育むことが狙いとしてある学科であると言える。

【 委　員 】

大原高校は勝浦若潮との統合を経ているが、勝浦若潮から受け継いだ商業の学びは普通系列の中に残っている。生活福祉系列では、保育士や介護士を目指すことができる。園芸系列では、さらに３つの専攻に分かれて学ぶ。海洋科学系列は、連携先が豊富で県の循環型環境推進モデル校にも指定されている。

これらの専門的な学びに共通しているのがキャリア教育である。１年次は「産業社会と人間」を履修し、各生徒が気になる事業所に各々調べに向かい、まとめた上で報告を行っている。２年次はインターンシップを行い、生徒自らがその依頼をしている。結果をまとめて報告するのは１年次と同じである。３年次は「課題研究」を行っている。単なる進学指導の枠組みを超えた、一生のキャリアについて自ら課題を立て、調べ、まとめた上で報告する場をとっている。

【 座　長 】

系列選択に迷う生徒はいるか。

【 委　員 】

１年での学習を踏まえて系列を選択するので、迷う生徒は少ない。

【 委　員 】

地域に高校は残さなければならない。市も第一次産業の担い手不足に悩んでおり、その中で大原高校が展開している教育活動はありがたい存在である。各系列の人数と進路状況はいかがか。

【 委　員 】

普通系列以外には施設・設備及び教える人の制限から上限人数を定めている。生活福祉系列が２０名、園芸系列が４０名、海洋科学系列が２０名である。

続いて、各系列の進路状況であるが、それぞれどれだけ専門を生かした進路選択をしたかと言うと、生活福祉系列ではおよそ半分であるが、園芸系列と海洋科学系列はそれぞれ１０％ほどとなっている。これは、その２系列に関連した求人が少ないことが影響していると考えられる。

【 委　員 】

総合学科では生徒一人ひとりの時間割が異なるので、他の種類の高校以上に教職員の加配や設備の充実が求められるという特徴もある。私は、総合学科をいろいろなパターンがある、まだ発展途上の学科だと考えている。ぜひ育てていってほしい。

大原高校の学校案内の進路決定状況を見ると、就職で地元にたくさん人材を送り出している。大原高校は、

設置している系列で岬高校と勝浦若潮高校の学びを継承している。頑張っていただきたい。

【 委　員 】

大多喜高校は教員基礎コースの設置によって、大原高校は従来の形の中でそれを発展させようとしている。実際に生徒が何をよしとし、何を課題としているのか、それを吸い上げていくべきである。大原高校に進学する生徒には、目的意識を持った生徒が多いように思える。

【 座　長 】

中学校側からみて、総合学科はどのように見えるか。

【 委　員 】

大原高校の総合学科について２点申し上げる。１点目に、自分がやりたい学びができるところと見ている。２点目には、学びたい系列があって大原高校を選ぶ生徒より、大原高校に行きたいという気持ちが先にあり、その後に系列について興味を持つという生徒が多いという印象がある。

【 委　員 】

かつて中学校に在籍していたころ、生徒と面接すると、大多喜高校に進むという生徒がいる中で、何人か絶対に大原高校に進学するという生徒がいた。そのような子は大原高校の学校公開に行き、考えが変わったようである。施設を見て、ここなら自分の夢に近づけると感じたのかもしれない。

総合学科の系列は途中で変えられるのか。

【 委　員 】

これは教員の間で議論が続いている件で、私は２年、３年の２年間で専門的な学びを履修する以上、途中から変えたとしても追いつくのは厳しいと見ている。もっと系列変更を柔軟に見るべきとする教員もおり、確かに制限が厳しくても生徒はよく思わないので、難しい問題である。

【 委　員 】

国公立大学の中には、専門学科枠・総合学科枠を設けているところがある。これらの要素もＰＲに活用できると思う。

《 事務局 》

先ほど、大原高校の園芸系列と海洋科学系列から学びを生かした進路へ進む生徒が少ないという話があったが、自治体の方々がそれをどのように見ているのか伺いたい。

【 委　員 】

農業や水産業は個人事業主の方が多いので、一般的な求人という形では少ない状態である。学びから就職への接続が適切にできていないのかもしれない。

【 座　長 】

最後に、全体を通じて意見はあるか。

【 委　員 】

委員の方々には中学校の先生方が多くいる。今回の協議会で大原高校、大多喜高校のことが、更によくわかったと思う。この２校ではこんなことが学べるという情報を中学生、その保護者、中学校の先生方に発信して、地元の子は地元で育てる、という考えを広めていっていただきたいと思う。

【 座　長 】

次回は今回の議論を踏まえて、適正規模・適正配置、いわば生き残りの話となる。次回も多方面から御意見をいただければと思う。